

画像座標観測ファイルフォーマット説明書

1. 適用範囲

本フォーマットは、画像座標観測ファイルに適用する。

2. 概要

1. テキストファイル共通フォーマットを適用する。
2. 像点（画像上での観測点）1点を、1レコードに記述する。

3. 計測形式

同一画像の同一位置を計測しても、画像処理ソフトにより、表示される値は異なる。本ファイルでは、これを計測形式と定義し、以下の計測形式に対応する。

計測形式の値	定義	P、Lを求める式	
「img0」	左上の画素の中心が(0,0)の画像座標	$P = PX+1$	$L = LX+1$
「img0.5」	左上の画素の中心が(0.5,0.5)の画像座標	$P = PX+0.5$	$L = LX+0.5$
「img1」	左上の画素の中心が(1,1)の画像座標	$P = PX$	$L = LX$
「math0」	左下の画素の中心が(0,0)の数学座標	$P = PX+1$	$L = Lines-LX$
「math0.5」	左下の画素の中心が(0.5,0.5)の数学座標	$P = PX+0.5$	$L = Lines-LX+0.5$
「math1」	左下の画素の中心が(1,1)の数学座標	$P = PX$	$L = Lines-LX+1$

ここで、

- P、L** プログラム内部で使用する raw 画像ファイル上でのピクセル番号、ライン番号（1から数え始める）
- PX、LX** 本ファイルの観測レコードに記載されているピクセル番号、ライン番号の計測値（画像処理ソフトの出の計測値）
- Lines** ライン数

Photoshop での計測値をそのまま用いる場合は、「img0」である。

Imagine で、デフォルトの MapInfo（地図投影情報）を用い、計測値（マップ座標 = ステータスバーに表示される値）を、小数点以下まで記載する場合（または整数に四捨五入する場合は「math0.5」、整数部分のみを記載する場合は「math0」である。

4. レコードの出現順序と形式

（IDレコード）

第1レコードは、ファイルの種類を示す。

番号	フィールド名	形式	意味
1	ファイルの種類	A	「Image_Observation_File」

（計測形式レコード）

第2レコードは、ピクセル番号、ライン番号の計測形式（本ファイル上での記述形式）を定義する。

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「ObservationStyle」
2	計測形式	A	計測形式*1

*1 「3. 計測形式」を参照

（観測レコード）

次に、画像上の観測を記述するレコードを任意の数、任意の順序で記述する。

番号	フィールド名	形式	意味
1	点名	A	地上点の名称。
2	画像ファイル名	A	拡張子を除く raw 画像ファイルの名前
3	ピクセル番号	F	raw 画像ファイル上でのピクセル番号の計測値*1
4	ライン番号	F	raw 画像ファイル上でのライン番号の計測値*1
5	使用フラグ	A1 (opt)	調整に使用するかどうかのフラグ。 省略 (「-」) 使用する 任意の文字列 使用しない
6	精度指標	A(opt)	詳細未定*2
7	精度指標	A(opt)	計測形式 (点ごとに計測形式を指定する場合)*1

*1 「3. 計測形式」を参照

*2 指定されない場合、基準点ファイルに記載されている地上点は、基準点ファイルの「種類」フィールドに基づき分類する。基準点ファイルに記載されていない地上点は、タイポイントと分類される。